

# 子どもの未来育成委員会計画

委員長 佐藤 利彦  
副委員長 米持 利則  
幹事 新保 哲也

## 【基本方針】

「子どもは宝」という言葉とは裏腹に、家庭内での事件、公教育における学習指導要領の一貫性のない議論、他人の子どもを叱れない地域社会など、教育は社会問題となっています。また、現代社会は、様々な情報をすぐに入手できる利便性の高い環境にあります。それを知識の集積だけにとどめることなく、自ら読解し取捨選択するリテラシー能力を育む事はもちろんのこと、社会を生き抜く力を養い、夢や希望で人生を楽しく歩んでいこうとする前向きな人材育成が必要不可欠です。

この上越地域の未来を担う子どもたちがやがて社会に出て、すぐに対応できる人材になるために、また自立できる大人となるために、リテラシー能力の向上と生きる力を育む事を目的としたプログラムの構築が急務と考えます。まず、リテラシー能力の向上では、自分に合った情報を収集し、編集・読解する一連の体験を通し活用する術を伝えます。また、インターネット上での誹謗中傷、いじめ、プライバシーの侵害、有害情報などへの対応を認識させます。そして、生きる力を育むために、親や地域の大人たちと一緒に活動して学んでいくことが必要と考え、関連団体と協力し体験授業をプログラムの中に取り入れ、多くの人と触れ合える場を創ります。子どもたちが、親を見て気づき学んでいくことや、地域の大人たちとの関わりから感じ教わっていくことが、生きる力につながっていきます。子どもたちが活動を通して学んできた事や感じてきた事を自ら考え判断し、理解したものを発表する事で、より明確な目的を持ち、人間形成の礎にしていきます。最後に担当例会の場において、子どもたちの豊かな人間形成を育むためには、学校、家庭、地域の連携が不可欠で、その大切さを、より多くの地域の大人に伝播いたします。

次世代を担う子どもたちの人間形成、「確かな学力＝知、豊かな人間性＝徳、それを支える人＝体」をしっかりと育む環境を創り出しこれからの地域の力となる人材を育みます。その発展的継続が、まちづくりとしての上越の発展につながると確信し、この一年間、我々全員が一丸となりこの地域を担う子どもの未来を育成します。

## 委員会職務分掌＜事業内容＞

1. リテラシー能力向上と生きる力を育む事を目的としたプログラムの作成・実施
2. 10月担当例会の開催
3. 雪ん子基金の設営